十二指腸癌における癌微小環境の検討

１．研究の対象

2005 年 1 月～2022 年 12 月に当院で十二指腸がん（十二指腸腺癌）の手術を受けられた方

２．研究の概要

研究期間：総長の研究実施許可日～2029 年 3 月 31 日

研究目的：十二指腸がんの手術では、がんの周囲のリンパ節を一緒に切除します。これまでの当院での検討で、膵臓の裏側にあるリンパ節（No.13 リンパ節）にがんの転移があった方では、手術後の再発が多いことがわかってきました。一方で、再発後も長く過ごされている方もいらっしゃいます。本研究の目的は、手術で切除したがん組織の中の免疫細胞（がんを攻撃する細胞や、反対にその働きを抑える細胞など）の状態が、No.13 リンパ節への転移の有無によってどのように異なるかを明らかにすることです。この結果は、再発の起こりやすさの予測や、手術後の治療・検査方法の改善に役立つと考えています。

研究方法：診療録（カルテ）と病理診断報告書から、手術内容、病理診断の結果、手術後の経過（再発の有無、生存の状況など）を調べます。また、病理診断のために当院で保管している手術標本（パラフィンブロック）から薄い切片を新たに作製し、免疫細胞などを染め分ける染色（免疫組織化学染色）を行い、顕微鏡画像をコンピューターで解析します。これらの結果を、No.13 リンパ節転移があった方となかった方で比較します。本研究のために新たに来院していただくことや、新たな検査・費用の負担はありません。遺伝子の解析は行いません。標本の作製と染色は外部の検査機関（株式会社徳島分子病理研究所、KOTAI バイオテクノロジーズ株式会社）に委託しますが、お名前やカルテ番号など個人を特定できる情報は送りません。お預かりしたパラフィンブロックは、標本作製後に当院へ返却され、引き続き当院で保管します。本研究は企業等からの資金提供を受けずに行います。

３．研究に用いる試料・情報の種類

情報：手術時の年齢、性別、血液検査（腫瘍マーカー）、手術の内容、病理診断の結果（がんの深さ、リンパ節転移の状況等）、手術後の治療内容、再発・生存の状況、カルテ番号、病理標本番号　等

試料：手術で切除した組織（病理診断後に当院で保管しているパラフィンブロック）

４．お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。

その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

大阪国際がんセンター　消化器外科　研究責任者　阪野佳弘
住所：〒541-8567　大阪市中央区大手前 3-1-69
電話：06-6945-1181

以上